

関係機関 各位

「NPOへの資金提供・助成の最適化に関する調査」報告書 刊行のご案内

—助成を行う側と受ける側とが「ともに伝わりあう関係」となるために—

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]
代表者 川北 秀人

「NPOへの資金提供・助成の最適化に関する調査」報告書を発行しました。

IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]¹では、昨年10月から今年1月にかけて、NPOへのアンケート調査（140件）、ならびに市民活動への助成を行う91助成機関・131件の助成プログラムの分析を行い、その結果をまとめた報告書（冊子108ページ、頒価2,100円・税込・送料別）を3月14日に刊行しました。

この調査は、市民活動にとって貴重な資金源である助成プログラムがより効果的に活用されるために、助成を行う側と受ける側の間にあるコミュニケーション不全をいかにして改善するのかを目的に、NPOへのアンケート調査、及び助成プログラムの募集要項、申請書式の分析調査を実施しました。

NPOへのアンケート調査では、助成申請に際して「募集要項にどんな項目を記載してほしいのか」を尋ね、助成プログラムの募集要項の実際の記載状況と比較することで、両者の差異を明らかにしました。

また、助成プログラムについては、募集要項上での審査基準の表現方法や記載箇所、申請書式の設問項目や審査基準との関連度合い等を分析しました。

これらの調査結果から、両者がコミュニケーション不全を引き起こす要因は、以下であることがわかりました。

コミュニケーション不全の課題とその要因

課題A：募集要件を満たさない申請はなぜ起こるか？

要因A：助成を行う側が「申請のために必要な情報」を提供しきれていない。

→申請側が募集要項に記載を求める内容と実際の記載状況には大きな開きがある

例：「自己資金の有無や自己負担率」申請側必要度（92.4%）要項記載率（18.0%）

「審査体制（委員の構成など）」申請側必要度（89.7%）要項記載率（50.4%）

課題B：審査に必要な情報が申請書にしっかり記載されていないのはなぜか？

要因B①：申請側が審査基準を把握できていない

→審査基準が見あたらない（約3割は基準の明示なし）

→審査基準らしき記述が、募集要項の様々な箇所に散在している

→審査基準の意味がわかりにくい（約4割が意味の説明なし）

要因B②：審査基準と申請書の記入項目が連動していない

→審査に必要な情報をどの欄に記述するのかの指定がないものが約7割

なお、こうした分析結果を踏まえ、報告書では、助成を行う側が募集要項に記載すべき18項目や、NPOが精度の高い申請を行えるよう、主な審査基準の意味の解説や申請書に記述する際のポイントなどを提案としてまとめています。

報告書の購入に関する情報は、専用ブログ (<http://blog.canpan.info/gate-iihoe/archive/32>) をご参照ください。

本件についてのお問い合わせは、

IIHOE（担当：赤澤、北川、黒河） E-mail: gate.iihoe@gmail.com

¹ 1994年設立。NPOのマネジメント支援や情報開示の促進、企業の社会責任・社会貢献推進の支援、自治体とNPOとの協働環境づくりのための調査・研究活動などに取り組む。代表者：川北秀人 <http://blog.canpan.info/iihoe/>